

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社ユニコーン
大阪市中央区大手通 1-1-2
TEL.06-6943-4560 FAX.06-6920-5311

いつも大変お世話になりありがとうございます。
次々と台風が発生して、暑くなったり寒くなったり、夏と冬がせめぎ合っているかのような空模様ですね。皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

7月から9月にかけて、大阪ではオランダの作家の展覧会が2つ開催されています。ひとつは「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」、もうひとつはオランダのアーティスト「テオ・ヤンセン展」です。

まずは、大阪市立美術館のフェルメールへ。タイトルからしても主役でもあるはずのフェルメール作品の展示は1点のみ。近年の大規模な修復により壁面にキューピッドの画中画が現れたことで話題の「窓辺で手紙を読む女」です。この絵にたどり着くまでに、オランダの画家たちが描いた、豪華な貴族社会から農村の風景まで、当時の時代を映した作品がたくさん並んでいました。ラストによく表れた「窓辺で手紙を読む女」。絵の中の女性の吐息や心臓の音が聞こえてくるような素晴らしい作品でした。修復によって画面全体が鮮やかになって、特に手前の赤い織物の柔らかな美しさに目を惹かれました。

ところで「オトナの教養講座」という You Tube チャンネルをご存知でしょうか。評論家の山田五郎さんが、時代背景や文化、画家の人柄などを交え西洋美術について詳しく解説してくれる番組です。その中で「オランダの絵画はサイズが小さい」「今やってる大阪市立美術館にも小さな絵が並んでいますよ」と話していたのですが、まさにその通り！ちょっとしたことですがいつも以上に展覧会を楽しめました。（どうして小さいのか？その理由は“オトナの教養講座”をご覧くださいませ）

そして次は大阪南港 ATC Gallery のテオ・ヤンセン展へ。風を動力源としてオランダの砂浜を疾駆する「ストランド(砂浜)ビースト(生命体)」。以前、東京で見た時よりも多くのビーストたちがやってきていました。

塩ビパイプやペットボトルを結束バンドでつなぎ合わせたこれらのビーストは、作者亡き後も自立して砂浜で生き延びることを目指し、生と死を繰り返しながら進化しているそうです。テオがビーストを動かしたり調整したりする様子の動画を見ると、まるで親から子へ注がれるような深い愛と情熱を感じて、涙が溢れそうになりました。

小型のビーストを動かせるコーナーでは、大人も子供も順番待ちをしていました。わたしもその列に並んで、ビーストを動かしました。少し強めに押すとゆっくりと沢山のパーツが動き、ぎこちなく前に進みはじめます。命を吹き込んでいるかのような不思議な気持ちになりました。

気温の変化がはげしいですが、皆さま、充分ご自愛くださいませ。
芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・楽しい秋を過ごされますように。



フェルメール「窓辺で手紙を読む女」



巨大ビーストが動く様子は壮観でした！

今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしくお願いいたします。